

木材研究委員会を新設

木材の良さ、科学的に証明

東京木材問屋協同組合

東京木材問屋協同組合（東木協、東京都、渡辺昭理事長）は木材研究委員会を新設し、委員長には飯島義雄氏（丸榮木材社長）が選ばれた。木の良さを科学的データに基づいて消費者に発信することで、木材の需要拡大を目指す。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、「木と暮しのふれあい展」が中止となった。そうしたなか、組合執行部が木材需要拡大の一環として、市場振興委員会のなかに木材研究開発委員会を立

美同センター自然セラピープロジェクト特任助教に協力してもらった。西氏は木材の効果について長年にわたり研究し論文文化しており、3年前から東京原木協同組合とともに独自の研究を実施している。東木協も東京原木協同組合と連携し、木材業界が抱える課題にも取り組むことにした。

同員会のメンバーは、統轄し森林慎介副理事長、担当委員は豊勝（網中木材）、齊木田信一常務理事、委員 裕子（鴨川商店）、山会委員長は飯島義雄、木貞治（山貞）、井関副委員長は長谷川泰治、政太（もくもく）、梶（長谷川萬治商店）、本芳太郎（梶本銘木河合信一郎（協和木材店）の各氏。今後の取り組みで研究について組合月報で4月から2022年3月まで、計12回にわたって連載し、組合ホームページでも発信する。木材を現しで使う効果の科学的データの収集にも取り組む。

14日に第1回の委員会会議が行われた

